www.chikamori.com 〒780-8522 高知市大川筋一丁目 1 - 16 tel.088 - 822 - 5231 fax.088 - 872 - 3059 発行者●近森正幸/事務局●川添曻

辰巳芳子さんをお迎えして

▶「カツオ節の名産地で、お若い方もきょうは大勢見えるようだけど、 ふだんダシを引いている(取っている)方はどれぐらいいらっしゃる かしら?」と、満員の1階2階3階席まで眺めやる辰巳芳子さん



▼講演会の流れについて最終打ち合わせを行なう辰巳さんと北村龍彦副院長



提供する食材や食事、 調理にも「心をこめる」 という原点の再認識

近森病院副院長 北村龍彦

著名な料理研究家の辰巳芳子さんをお迎えして、8月20日(日)に地域医療講演会が開かれました。近森会の職員や医療関係者のみならず、一般の方々にも公募をしましたところ、1,600通を超える応募があり、会場の定数の関係で、残念ながらすべての方に受講

していただくことができず、700名 以上の方をお断りさせていただきました。参加を楽しみにされていた方には 申し訳ありませんでした。

今回辰巳さんをお呼びした目的は、 大きく二つあります。ひとつには近森 病院の第33回地域医療講演会で、「い のちを支えるスープ」: 食を考える〜 病院で、家庭で〜という演題で講演し ていただくことでした。

講演内容はご自身の料理研究の歩みから病院食への想い、人生哲学にいたるまで心が洗われるようなお話をいただき、医療人として、また人間として志を高く持ちながら何事にもあたることを教えていただきました。

二つ目の目的は、その翌日の8月21日(月)に、近森会に入院しておられる患者さんの病院食に辰巳さんレシピの4種類のスープ(なすと大麦のスープ・人参のポタージュ・煎り玄米のスープ・干し椎茸のスープ)を病態に合わせて提供することでした。

皇居一周ウォーキング は比較 近森 正幸 気安く



皇居の内堀通りは周囲の風景といい、実際にウォーキングやジョギングするコースには緑が溢れ、日本の道百選に選ばれているのもうなずける。全国でもトップクラスの道だろう。

妻と一緒にあらかじめ用意した運動靴を履いて朝の6時にスタートした。祝田橋から左に二重橋、右に丸ノ内のビル群を眺めながら松林のなかを北に進み、東御苑から平川門、そして千鳥ケ淵を通って三宅坂を下るという、左回りのコースをとった。

週末はとくに人が多い。土曜日には比較的おじさん、おばさんが多く気安くあいさつしてくれる。日曜日には本格的なランナー型の人たちや若い女性も多い。一周およそ5キロ、歩いて1時間の散歩にはちょうどよい距離だ。

ちなみに高知城一周はおよそ 25 分。ちょっと物足りない感じがする が、県庁前から追手門にかけてはお 堀もあり、なかなか風情がある。

私たちが歩いた前日には、1,800回目のロングランを果たした森光子が演じる「放浪記」を観た。そのせいもあるかも知れないが、皇居の内堀通りを歩きながら、戦後60年、日本はほんとうに幸せになったんだなあと感じた。

日本の経済力と、125代およそ 2600年続いた皇室をもつ日本の智恵 を感じる。日本人に生まれてほんと うに良かったと思う。

理事長・ちかもり まさゆき



▲8月21日、夕刻の辰巳さんレシピ4種類のスープの提供に向け、辰巳さんを中心に新館7階の厨房で打ち合わせる皆さん

辰巳さん自らとお弟子さんやホテルメトロポリタンエドモントの名誉総料理長の中村シェフが加わり、高知パレスホテルの田中シェフと近森会の調理師が調理し、栄養科のスタッフや看護師はじめ皆で心をこめて575名の患者さんに提供しました。(※次頁へ)

(※1面から続く)

きっかけは早逝された近森会の仲間 への想いからでしたが、二つのイベン トのために辰巳さんを高知までお呼び できたのは、辰巳さんの料理や食材に かける情熱と、人生に対する生き方で ある「あなたのために」の精神がわれ われ医療人の患者さんに対する想いや 治療・看護・介護の精神とが合致して いたからと考えます。

このプロジェクトを終えて、情報化 と医療制度改革の揺れ動く時代の流れ の中で、スタッフ全員が今後 とも質の高い安心・安全な医 療の提供はもとより、提供す る食材や食事、調理にも心を こめてサービスを提供してい くという原点を再認識させて いただきました。

なお、病院食へのスープの 提供や高知県での食を考える 活動は、辰巳さんと連携をと りながら、継続していく予定



▲ 7 階厨房で大忙しの、左手前に高知パレスホテルの田 中シェフ、続いてホテルメトロポリタンエドモントの名 誉総料理長の中村シェフ。NHKTV の取材も行なわれた

何ものにも代えがたい経験…

▶ご講演を終えられた辰巳さんに一同を代表して、近森理事長から 「私も干し椎茸のスープなど大好きで家でよく作ってもらってます が、その有難さが身にしみました…」など感謝を込めて御礼の言葉

「命を支えるスープ」プロジェクトは 5 月 30 日、東京のメトロポリタンホテルで開 かれた「良い食材を伝える会」への北村副院長の出席でスタートをきりました。6月 8日に第1回キックオフミーティングを開いて高知パレスホテルの吉村社長や田中シェ フ、エームサービスと近森会栄養科からも主要メンバーが出席して本格的な打ち合わ せがスタート。以来、10回近い打ち合わせ会と6月26日には鎌倉市の辰巳邸訪問を 果たし、複数のスープ試飲会を経て、とうとう8月21日(月)の本番を迎えた次第です。 直接スープ作りに関わられたお三人に「何ものにも代えがたい」と語られる経験の

一端をお話しいただきました。

高知パレスホテルの田中秀典シェフ

料理人の立場からいえば、ひたすら「美 味しさ」を求めたいところだが、辰巳 先生には野菜本来の味を引き立たせる というか、野菜の味を邪魔しないでスー プ自体の美味しさを出すにはどうすれ ばいいかを、鎌倉の教室でも、50人分 と 100 人分それぞれの試飲会でも教わ れたと思っています。

最後の試飲会のとき「スープの味が出 過ぎていて、私の味からはちょっと遠 くなったわね」と辰巳先生に感想を承っ たときは正直焦りました。でも、エド モントの中村シェフからアドバイスを 戴き、「辰巳先生のスープがわかった!」 と自分で納得して本番に臨めました。中 村シェフからのアドバイスは企業秘密 です・笑。

会ののち、聴講された方からの問い 合わせも多く、この秋にはスープ教室 を開きたいと思っております(談)。

エームサービスの楠明生調理長

選りすぐりのトマトでもナスでも一 番美味しいのは夏だし、ニンジンなら春 先、という風に、どれほど厳選された食 材であっても時期によって味が変わる ということを、改めて教えられた気が します。そういう意味で辰巳先生に合 格点をいただいたこの度のスープと同 じものを 飲みたけ れば、来 年の同じ 時期まで 待ってね というこ

とになります。患者さんはどんな味付け なら食が進むか患者さんの舌に思いを馳 せる大切さを、ガツンと感じました(談)。

エームサービスの中島和友支配人

辰巳先生が鎌倉の教室でされている

▼辰巳さんのご講演中、なんども 田中シェフの努力が讚えられまし た。ご当人は裏方が手いっぱいで ナマでお聴きできなかったけど…



「左がエームサービスの楠調理長、 「良い食材と手間をかけた調理がで きる楽しさを味わえました」。右が 中島支配人で、「これまでにも数々 イベントに関わってきましたが、 準備段階からこんなに充実したイ ベントは初めての経験でした!」

ことは食の理想だと思うんです。我々現 場の人間は、目先の事情を調整しなが らどうやって理想に近づけるかの工夫 が求められます。今回のプロジェクト を息の長い食の運動に繋げていくと聞 いていますので、自分たちが役に立て ることをしっかり見つけたいです(談)。

地球温暖化

オゾン層の破壊により地球の気温は 上昇、北極の氷が解けて海面が上昇し 四国は海に沈んでしまう。京都議定書 やクールビスなどの対応策が講じら れる中、地球温暖化を他人事のように 思っていた私が現実を悟った日があり ます。数年前、お盆で故郷へ帰省した 時のことです。私の故郷は『ごっくん 馬路村』で有名になった馬路村です。 高知市から車で2時間弱、くねくね の道を安田川上流に走っていくと山間 に懐かしの我が家があります。久しぶ りの帰省に郷愁を感じながら茶の間に

入った時、なん ともいえぬ違和 感を覚えました。 茶の間の壁に冷

房機が鎮座していたのです。「クーラー、 買ったの?」驚いた私に笑顔で答える 父。蝉時雨、団扇にスイカ、蚊取り線

香、懐かしの夏の風情を求めていた私 は、父親の「お一の、暑い!クーラー つけてくれぇ」という言葉で地球温暖 化を実感しました。

(介護老人保健施設 いごっぱち

看護師長 北岡一恵)

第4回日本医療マネジメント学会高知県地方会

地方会が設けられた経緯も



クリニカルパス委員会委員長 高橋 潔

8月27日(日)、高知市文化プラザ・かるぽーとにおいて第4回日本医療マネジメント学会高知県地方会が開催されました。本学会は当初はクリティカルパスの会として始まりましたが、医療を取り巻く様々な問題を考える会として発展し、さらに地方での様々な問題も議論するため地方会が設けられたものです。

本年度第4回は近森病院が当番で開催しました。約230名、スタッフをいれると約300名の参加でした。

医療の変革のスピードは年々速くな り個人で対処しようとすることは大変 な時代です。

急性期病院では DPC の導入に伴って 医療の質が問われ、療養型ではベッド 数の削減など医療経済的な問題が降り かかってきています。様々な施設での 取り組みや発表を参考に各病院へ持ち 帰り、医療の質を向上させる手助けに なったのではと思います。

早稲田大学の棟近先生に「医療の質を向上するには」と題して特別講演をお願いしました。医療界で遅れている標準化の問題、質の向上を図るにはどうするかという新たな視点からのお話が聞けました。



学・棟近先生で講演中の早稲田大

また、ランチョンセミナーでは香川 労災病院の藤本先生に IT と地域連携の クリティカルパスについて講演をいた だきました。医療の実践の方向性を考 える上で非常に参考になりました。



当院からも各部署から7題の発表がありました。来年度は高知赤十字病院の中村章一郎先生の下で8月26日にかるぽーとで開催予定です。

最後に開催するに当たり各委員会や 各部署の皆様には大変お世話になりま した。また、学生ボランティアにも今 回お手伝いいただきました。この場を 借りてお礼申し上げます。

▶当日は総勢 70 名のスタッフにご協力いただきました



院外エッセィ

休肝日と、ときに 晩酌を欠くという 不規則性の関係

高知大学教授 岡田 俊裕

おかだ としひろ 1948年3月愛媛県 生まれ。高知大学教授。博士(文学)。 著書『近現代日本地理学思想史』(古今 書院1992年),『日本地理学史論』(古 今書院2000年),『地理学史 人物と論 争』(古今書院2002年),『地理学者の 戦時期著作目録』(和田書房2006年)

1996年に高知大学に着任して以来、おもに教育学部で地理学を教え、地理学史を研究しています。

地理学史といっても、私のやっている のは日本の地理学者の研究です。ですか ら、かなり人間臭い内容を扱うことにな ります。それが私にはおもしろい。

この仕事を長く続けるためには、健康でなければなりません。いま健康でおれるのは、ひとえに先祖から元気な体をいただいたからだ、と妻はいいますが、私だって少しは努力しているのです。そのひとつは、犬の散歩です。毎日、朝と夕、計50~60分かかっています。4歳のオスで体育会系らしく、なによりも散歩が好きで、雨が降っても台風が来ても行きたがります。

二つめ、週1日の休肝日を設けてい す。それは心野ます。もともと少ししか飲まないんだ れるように思いし(本当です)、ときに晩酌を欠くと あると、次なるいう不規則な生活はしたくない、と私 増すようです。



は思います。また、心臓がいつも働いているように、肝臓もそうあるべきだとも思います。しかし、健診医は、量が問題なのではない、肝臓の丈夫さとの兼ね合いが問題なのだ、長く楽しみたければ休肝日を設けるべきだと言います。妻もそれに同調し、かさにかかってきました。やむをえず現在服従中です。これまでに4、5日は抜いたかな。

三つめ。仕事は無理なく自分にでき そうなことをやろうと思っています。 目標は大きい方がよい、その方がやり 甲斐ができ意欲がわく、とよくいわれ ます。しかし私はそうは思いません。 自分にできそうなこと、それは大きな 困難な課題ではなく小さな容易な課題 ですが、それに向かう時にやる気が出 るのです。やれば少しとはいえ成果が あがります。そして充実感が得られま す。それは心身の健康をもたらしてく れるように思います。健康で充実感が あると、次なる小事に向かう推進力も 増まようです



役割を意識して

整形外科科長 鄭 明守



2年ぶりに近森病院で勤務させていただくことになりました。以前とは医療情勢も大きく変わり、戸惑っている最中の8月16日付けで整形外科科長を拝命いたしました。

過去の西田、道中両科長(現部長) や現西井科長に比べるとはなはだ実力 不足で、科長を名乗るのが恥ずかしい ほどですが、自分の役割、ポジション を意識して頑張りたいと思います。

個人的には無趣味であった自分にも息子と一緒に出来る趣味がみつかり、息子が成長するまではアンチエイジングの精神で鍛えていきたいと思っています。

理想は15歳ぐらいになった息子とガチンコで勝負し(周りで妻と娘が涙ぐみながら)、引退といったところでしょうか。これからもよろしくお願いします。



拝命をきっかけに 自分から自分達」へ

理学療法科科長代理

國澤雅裕(上・左)

前任者の井手科長退職に伴い、9月 1日付けで理学療法科科長代理を拝命 いたしました。

思い返せば昭和63年6月、私の近森会でのキャリアが始まった頃はリハスタッフも少なく、入院患者様に週4回の訓練を提供するのが精一杯でした。現在では近森会全体で理学療法士の職員数は97名に達し、まさに隔世の感があります。

平成16年11月からは本館でリハ部全体の取りまとめ役として働いていましたが、その振り返りも十分出来ないままの異動となりました。年齢だけは40歳を遥かに超え、お腹周りも20代の頃が懐かしい今日この頃ですが、まだまだ自分の足元さえ定かになっていないように思います。この拝命をきっかけに、スタッフの一人一人に目配り出来るよう努力していく所存ですので、どうか皆様ご指導の程宜しくお願い申し上げます。

近森リハ病院医療相談室室長 西本奈加(上・右)

学生時代の実習で先輩方の仕事にふれ「ここの一員として働いてみたい!」と思ったのがきっかけでこの仕事を始めました。それから、ソーシャルワーカーとしての「自分」が少しでもよい仕事ができるようにと思ってきましたが、この度の辞令をいただき、これからは「自分達」がよい仕事を提供できるようしっかり考えていかなければと思っています。

室長の荷は重くも感じますが、これまでたくさんの大切なことを教えてくださった利用者・ご家族に感謝しつつ、あたりまえのことを大切にして気負わずにやっていきたいと思います。よろしくお願いしたします。

初心にかえり

作業療法科主任 細川 忠

(上•中央)

就職して早いもので、8年が経ちまし ※次頁へ

ハッスル研修医 第二部 前期研修医 vol.5

研修医 養川 永二郎

「症例は26歳男性。主訴は臨床研修目的。既往歴は2歳時にファロー四徴症にて手術。現病歴は1980年1月奈良県に生まれる。生まれながら心臓病であり2歳で手術。奈良県内の小・中・高校を卒業したが、二浪して大阪医大へ。今年3月に無事国家試験合格し就職したため来院した。内科研修にて下腿浮腫が出現。息苦しさなどの症状なく経過観察していたところ、下腿浮腫は軽減した」。

こんな症例の 僕ですが、最近、 同僚のM先生 が「顔色悪いよ? 酸素足りてる?」

とよく聞いてきます。「足りてるよ!」と笑いながらあしらっていたのですが、この前ERでこっそりSpO2(動脈血酸素飽和度)を測ってみました。結果は95%と、とても笑える数字ではありませんでした。下腿浮腫ができるだけのことはあったようです。

近森に来て約半年。医者として働

症例提示

いてやっと半年。自分なり にできることを考えて仕事 をしているつもりですが、至 らない部分が多すぎて周り の方々から叱咤、叱咤、時々

激励を受ける毎日です。怒られることは多くても毎日充実した日々を送ることができています。この半年くらいでそろそろ僕らは「つまようじ」くらいにはなれたでしょうか?

高矢先生から始まったこの連載も 僕で最後です。皆さん、こんな1年目 研修医をよろしくお願いしますね!



た。新人の時には、OT科にも主任が居 ましたが、良く考えたら自分もそんな年 になっていたんですね。その時は、「主 任って大変だ!」と他人事のように考え ていたような気がします。

現在の自分は、7年間お世話になった リハ病院から本館へ異動になってから微 妙に大変な1年だったように思います。 異動の1ヵ月後に膝の靭帯を切り、同僚 の退職、寺田科長の退職などが重なり、 やや落ち込み気味でした。しかし、4月 から新たな科長、科長補佐、新人を迎え 6ヵ月が経ちました。いろいろな目標に 向けて初心に返り楽しみながら仕事して いきたいと思っています。今後とも本院 作業療法科を宜しくお願いします。

第5回公開県民講座を四万十市で開催 2006.9.15(土)





▲ 舞台はこんな感じで。左に司会の松岡看護師長

大型台風 13号が沖縄に近づく中、スタッフ 28 名が車に乗り合わせて朝早く出発。窪川辺 りで嵐に見舞われながらも暗くなる気持ちを こらえ片道2時間半、ひたすら四万十会場に 向けて走りました。そのかいあってか、会場 周辺は青空さえ見え隠れするほどのお天気で、

整形外科の衣笠 部長をはじめ、 道中部長、西田 部長、西井科長



による講演会を無事開催することができました。

商店街には人っ子ひとり通らない状況にもか かわらず、120名ものお客様にご来場いただき、 整形の悩みの多さを実感した次第です。

フロアーに設けられた相談コーナーでも先生 方が交替でお答えするなど、講演、相談ともに 喜んでいただけたのではないかと胸をなでおろ すことしきり、嬉しい幡多路での公開県民講座 となりました。皆さま、お疲れさまでした。



必要とされる薬局で

近森病院薬剤部薬局長

筒井由佳(上・中央)

薬局長の辞令をいただいてからの 1ヵ月間を振り返る時、初めての業務 に戸惑う私をさり気なくカバーしてく ださったり、病棟や廊下ですれ違う時 に「お昼食べた?」と気遣ってくれる 他部署のみなさん、心配して薬局まで 足を運んでいただいたり、電話やメー ルでの相談に快く応じてくださる先生 方、そして一生懸命盛り立てようとし てくれる薬局のみんな!

そんな温かく力強いスタッフがいる 近森病院だからこそ、私でも薬局長と して勤めていけるのだと感じています。

薬学部もこの春の入学生から6年制 となり、薬剤師としての専門性が強く 求められるようになります。薬の専門 家として、適正使用や医療安全、服薬 指導に関わり、チーム医療の一員とし て必要とされる薬局でありたいと思っ ています。これからも薬局をよろしく お願いいたします。

感謝の心忘れずに 薬剤部主任 嶋崎ユリカ

近森病院で、歌って踊れる薬剤師と呼ばれ始めて、ちょうど 10年。節目の年 に辞令をいただきました。振り返ってみると、薬剤師の業務は調剤から、病棟業務、 医薬品情報提供、混注など、チーム医療の一員として、どんどん幅広くなっていき、 近森会とともに薬局も自分自信も突き進んできたように思います。

その間には、いろいろな人たちとの出会いがあり、いつも多くの人に囲まれて、 賑やかに、あたたかく支えてもらっていたように感じます。活躍できる場所がた くさんあるのは本当に幸せなことです。これからも、感謝の心を忘れず、一つ一 つの出会いを大切にしていきたい。そして強力なパワーを持った薬局のスタッフ とともに突き進んでいきます。もちろん、歌って踊りながら ...。

じっくり考えながら

明神洋子(上·右) 薬剤部主任

このたび、主任心得の辞令をいただきました。 就職して、今まで先輩方や他のスタッフの皆さ んに助けてもらいながらの毎日でした。主任と いう立場となった今、自分の未熟さが身にしみ、 戸惑いと不安の日々を送っています。

どれだけのことができるか想像がつきません が、自分に求められていることをじっくり考え ながら成長していければと思っています。そし て、他部署との連携を大切に、スタッフと一緒 により良いチーム医療を提供できればと思いま す。ご指導のほどよろしくお願いします。

第6回公開県民講座 よくわかる"おなかの

病気"と治療法

平成 18 年 10 月 7 日 (土) 日時 午後1時~4時

入場無料、申込不要

会場 高知市文化プラザかるぽーと

- 1. 「胆石と言われたあなたに」 消化器外科部長 北川尚史
- 2.「早く見つけて切らずに治そう」 消化器内科科長 岡田光生
- 3.「ウイルス性肝炎と言われた あなたに」

消化器内科部長 栄枝弘司

近森病院の入院の窓口ができました

近森病院ではこれまで入院の窓口がなく入院が決定した場合、当日入院や予約入院される患者さんに対してのオリエンテーションは各科外



来の看護師が行っていた。場所も入院に対して不安がいっぱいの患者さんに対して外来窓口の混雑したところで入院時の説明をしていたので充分な説明がされていなかった。

そこで9月1日から総合受付の横で薬局の前に「入院案内窓口」を設置し、専任の入院案内担当者を配置した。

患者さんは、会計を済ませ 隣の入院案内窓口で椅子に座 り、ゆっくりと入院時に必要 な書類の書き方や入院時に必 要な物品、入院時の生活の案 内や、費用、今まで服用して いた薬などに対しては、鑑別 の依頼もスムーズに行われる ようになり必要時に薬剤師の 指導をすぐに受けられるよう になった。

また、入院日には、直接入院案内窓口に来ていただき、 直接入院できる場合は一緒に 病棟まで案内を行い、さらに 外来での検査のある方は外来 にご案内し、出来るだけお待 たせしないようにしている。

入院時の不安を出来るだけ 軽減し満足した入院生活が送 られるようなお手伝いをした いと思っている。

(近森病院総看護師長

宇田 和子)

薬剤投与病院研修レポート

病院研修を終えて

高幡消防組合 分隊長 國本 武恆 (たけつね)

救急救命九州研修 所で8月1日~9月 1日まで第4期薬剤投 与追加講習(座学、実 技訓練)を修了し、9 月4日~8日の5日 間、近森病院ERにお いて薬剤投与病院実習 (エピネフリン投与・



静脈路確保)でお世話になりました。

今回の実習では薬剤投与症例はありませんでしたが、救急救命士の薬剤ルートとして必要な静脈路確保を13症例経験させていただきました。研修所の人形ではバッチシだった手技が、患者さんではそれぞれ皮膚の感覚の違い、血管の深さ、何より自分自身の技術不足があり、失敗が続いた時はかなりへこんでしまいました。その時の看護師さんの励ましや根岸先生の的確なアドバイス(笑顔で)により、何とか頑張ることができました。

近森病院 ER のいい雰囲気の中、根岸先生はじめ ER のスタッフと出会え、いろいろな話が出来たこと、笑顔で腕を提供してくれたこと感謝しています。最後に何より快く承諾を下さった患者さま・ご家族に心より感謝申し上げます。

続 管理部長のカンタンこだわり料理 17

海鮮サラダ風スパゲティー

川添曻

メン食いの男に悪い男は居ないと言われるが、小生又然りである。 朝は冷やしそうめん、昼はザル ソバ、晩は飲酒後のシメのうどん

ソハ、晩は飲酒後のシメのうとんと続いても苦にはならない。 体重計ダイエット (単に毎朝体重計のデジタル表示に一喜一憂するだけ) もなんのそのという具合である。



画 総務課主任 小谷隆子

少し季節はズレるがまだ日の高い夕暮れ時からの食事のプレ リュードにはぴったりの一品だと思う。

使用するオリーブオイルは私が敬愛する先輩からいただいた有機のもの。パンにたっぷり付けても大変美味しい。オリーブオイルは料理の万能選手である。

材料(2人分)

あじ (刺身用) 片身、タコ足 1/2 本ぐらい、A (塩小さじ 1/2 レモン 1/2 個)、青じそ 5 枚、みょうが 3 個、プチトマト 4 個、かいわれ 1/4 東、スパゲティー(細めのもの)80 g~ 100 g、1/2 B(オリーブオイル 小さじ 1/2 白ワインビネガー大さじ 1/2 作り方①あじに 1/2 を振って 1/2 分くらい冷蔵庫に入れる。②青じそは細切りに、みょうがは薄切りにして水にさらす。プチトマトはヘタを除き、タテ半分に切る。カイワレは根元をザックリ切っておく。③スパゲティーをたっぷりの湯と多めの塩でゆで、湯を切って、氷水に入れよく洗い、水を切って 1/2 Bを混ぜる。④器に③を盛り、②を薄切りに、タコも切ってのせる。一味が薄いようならカキしょうゆでも滴す。魚は鯛や鮃の白身や、鮪の赤身、イカ、それから貝類などを使ってもよい。

※よく冷えたシャンパンをあけ、さっぱりモードのサラダ風スパゲティーからスタートする。残ったアジは細切りのタタキにして、葱と生姜とレモンしょうゆで。そしてタコは刺身しょうゆでワサビと共に。

初秋の風にシャンパンの酔いが心地良い。このあたりから濃い目の赤ワインに切り換え、オリーブオイルで炒めた田芋と蒟蒻、鶏肉の「炊いたん」と続き、最後は、大橋通りで買った厚めの赤身肉のステーキと付け合わせのししとうで締める。何とぜいたくな食事だろうか。「でも材料費は外で食べるよりよっぽど安い」とは言い訳。問題はシャンパンとワインのレベル(値段)だろう。

どこへ行こうかな**ぁ~**♥

一般外来看護師 北川知子 ▼向かって左

この写真は4年前に院内旅行で、 フランスへ行った時にとったもの で、「モン・サン・ミッシェル」と いう建物です。日本から飛行機で 13 時間、バスで 5 時間とたいへん 遠い所にありますが、海の中にぽ っかりと浮かんでいる島のようで とっても美しいところです。フラ ンスで最初に世界遺産に登録され た建物です。先日NHKの「あな たが選ぶ世界遺産」で2位に選ば れていました。とっても美しくて 壮大でまた行きたいなと思ってま す。ただ遠くって……。今年も院 内旅行の季節になってきましたが、 どこへ行こうかな?考え中です。



人物ルポ 236 🛑 ㈱高知広告センター 営業局営業第三部 課長補佐/西山真知さん







▲広報担当の小谷主任に向かって、にこやかに、時に「飛び込みそうな」勢いで企画の提案説明をする西山さん



「燃える思い」に値するジン

ただでさえ大きい目をなおカッと開いて広告の企画を説明する西山さんの表情は、何と満足気なんだろう。そうそう、中年のオジサンたちにはとっても懐かしい文化放送のレモンちゃん、こと落合恵子にどこか似ているのだ。

「ホントに面白いのは、仕事なんです!」とまずニッコリ。シャーシャーとそんな風にいわれると鼻白む向きがあるかも知れないが、こと西山さんに限っては、白ける暇が無いほどに、そのにこやかでフワッとした雰囲気からは想像出来ないような駆け足と、ときに全速力の半生だった、みたい…。

一人息子が小学校に上がったのを機に、まずは事務職として就職。そこで見たコピー機のセールスの若者三人の上司とのやり取りを聞き、「あんな風に要求をさりげなく通して商品を売り込むようなセールスがやれたらなあ…」と、若者たちの「売り込む情熱」に憧れを持ったのが最初。

で、一念発起して新聞の募集欄に応 募して合格したのが、求人案内などの

この写真は義妹(四女)の結婚式で

の一場面です。右から久保田アナ、娘

の萌、私本人、そして兄弟達です。見

広告を取ってくる仕事だった。雇用機会均等法も整備されてなかった当時、たいへんなことも多かったのだろうが、「何があっても西山は仕事を辞めません」と、折に触れお客さんと約束してきたそうだ。この言葉に、西山さんの仕事ぶりが想像できるし、きっと万感の思いが詰まっているのだろう。親身になってくれて広告スポンサーにとったら頼もしい反面、立派なご亭主と子どもに恵まれた営業ウーマンがいつ仕事を辞めるか…と不安を覚えられたのかも知れない。そういう時、きっと「何があっても辞めない」と、呪文のように唱えて、頑張ってこられたのだろう。

西山流にいえば、「燃える思いを賭けるに足る仕事は、例えば男子一生の事業として背水の陣で臨む新規開業をどう売り出すか、その苦労をともに買うこと」ときっぱり。西山さんの所属する第三部は県外まで営業範囲が拡がっており、「お昼はだいたい車でおむすび」の毎日らしい。こうしてすでに四半世紀が過ぎた。近森会にとっても医療情

勢をわかった上での提案がなされるから安心して頼れる存在といえる。

こんなに一生懸命で、崖っぷちにでも立つような凄みに溢れる西山さんの 仕事ぶりのルーツは、もしかしたら「社 会正義はどこにあるか、自分はいま何 をすべきか」と悩み苦しんだ「当時は 早熟な生徒だった」という、二言三言 では語れない青春時代の経験が関係し ているのかも知れない。

『フーテンの寅さん』を地で行くような武勇伝もいっぱいあったようだが、何を伝えるかという現在の「書く仕事」が一段落したら、『フーテンの寅子の立志篇』が纏められるのかも知れない。そういう西山さんのジンセイが、紛れもない今日の豊富なアイデアの肥やしになっていることだけは間違いない。

広告スポンサーの人手が足りないとき、「見つかるまで私がやりましょう!」と出勤前に5時起きで手伝うような愛情や情熱はきっと周りを幸せにし、だいいち息子はそういう母の背中が、「仕事人としての励み」になるに違いない。

リレーエッセイ

結婚生活の素晴らしさ

作業療法科 前田昌哉



にも思いつかず自分達の体型から小力 になろうということになりました。

それから準備を始めたのですが大変でした。衣装は西松屋とダイソーで買い集めることが出来ましたが肝心の振り付けが手に入らず、当日の朝に近森

会きっての小力ファンのPT島崎さんに映像を戴きました。(その節はありがとうございました)。当日の昼に従兄弟達も巻き込み一時間の猛特訓の末に晴れ舞台がやってきました。練習の時間が短く振り付けの統一は出来ていませんでしたが結果として大盛況でした。当然一番の注目の的は紅一点の娘の萌ですけどね。

結婚当初は妻の家族達とうまくやっていけるのかと不安もありましたが、お酒を通じて家族団欒のひと時を過ごしています。妻の両親は酒好きの婿達ばかりが集まり困っているかも知れませんが(笑)。ただこれだけはいえます。お酒って本当にいいものですね。

て分かりにくいかもしれませんが、結婚式の余興として小力のパラパラを踊った後に控え室にいた久保田アナと記念撮影をしました。実はこの日のためにメタボリックと言われながらも体作りをしていたんですね。毎日のお酒が本当に苦痛でした(笑)。そもそもなぜ結婚式で醜態をさらしたかというと二日前に溯ります。昨年

そもそもなぜ結婚式で醜態をさらしたかというと二日前に遡ります。昨年に結婚して以来新しく増えた両親や兄弟達と飲むことが多く、義妹(三女)の夫と飲んでいる時に何か結婚式にしてあげたいという話になりました。な

● 10月の歳時記●

千振

リンドウ科センブリ属 の二年草。日当たりの よい山野に自生する。

健胃薬として用いられるが、熱湯で千回振ってもまだ苦くて薬効があることから、この名がある。精神安定剤としても効果があるとされる。



画・千光士可苗

第14回 秋の運動会 7

高知女子大池キャンパス体育館で 060924



この眼力が優勝を外 各チームの監督集合。 科に呼び寄せた!! きっ、気色がちょっと…



迫力。ア〜恐るべし…



意欲と気力で、優勝の栄冠は外科チームに…

図書室便り^{(管理棟図書室} 8月受入分

- ・HANDBOOK OF CLINICAL NEUROLOGY /MICHAEL J.AMINOFF(他著)
- ・臨床病理レビュー 特集第 134 号 臨床検査 YearBook 2006 臨床生物学(感染症学)に関する基礎知識 / 小池和彦(他編集)
- ・50 の医療事故・判例の教訓 日常診療の落とし穴 / 日経メディカル (編集)
- ・医療機関での産業保健の手引き/相 澤好治(監修)
- ・介護保険制度の解説 平成 17年 10 月改正対応・平成 18年 4月改正準 備版/社会保険研究所(編集)

近森会 外来患者数 20,142 人 近森会新入院患者数 908人 近森会 退院患者数 916人 8 80.06 % 地域医療支援病院紹介率 近森病院平均在院日数 13.80 日 近森会 平均在院日数 21.49 日 近森病院救急車搬入件数 526 件 うち入院件数 234 件 手術件数 323 件 261件 うち手術室実施 全身麻酔件数 138件

編集室通信

▼当院の薬局の情報誌『かぷせる』を門外漢ではあるが秘かに愛読している。毎号タイトルにすてきなコピーが付くが、編集担当者に無理を言ってときどき私のコピーも採用してもらっている。ついついダジャレや、スタンダードの曲名になってしまうことが多い。遠慮なく落としていただいて結構だが、そうなると少し寂しくもある。「オッチャンいったいどうするネン」とツッこまれそうな気がする。

190号にレモングラスという薬草が出ていた。それまでずっとグラスに入れたホットレモンとばかり思っていたが、レモンとは全く違う植物であった。薬効も脳血栓、脳梗塞、心筋梗塞の予防といった立派なものであった。

てのようにウダウダと考えたり、思い込みが激しかったり、うっとうしくやっかいな「団塊の世代」のおじさんたちが増えてきそうである。「2007年問題」はもうすぐそこにやってきている。「問題」とは何だ!(かえる)